

本郷小学校マニフェスト（中期学校運営計画）

計 画 期 間

平成 18 年 12 月 18 日 ~ 平成 23 年 3 月 31 日

学校教育目標

輝け、本郷の子どもたち

～自分のよさを発揮し、互いを認め合う子どもが

楽しく集う学校を目指します～

具体目標

- ・ 学ぶ喜びや自分の考えで行動できる楽しさを味わえる子どもを育てます。
- ・ 子ども同士や地域での学び合いを大切にする子どもを育てます。
- ・ 心と体を磨き、めあてに向かってやり抜こうとする子どもを育てます。

学校経営の方針

- ・ 基礎・基本の確実な定着を図るとともに、それを応用、発展できる創造性のある子どもを育てます。
- ・ 問題意識をもって自主的・主体的に問題解決できる意欲的な子どもを育てます。
- ・ ふれあい活動を通して、コミュニケーション能力を身につけるように努めます。
- ・ 校内の授業研究を通して、指導と評価の一体化を目指した授業形態や指導方法の工夫改善を図ります。
- ・ 学校を開き地域力を生かした学校づくりに努力するとともに地域参画型の学校運営を行います。
- ・ 子どもの安全教育の充実を図り、危機回避能力の向上に努めます。

指導の重点

- ・ 特色ある教育活動を推進し心の教育と体力向上に努め、小学校生活を豊かにできる学校をつくります。
- ・ 学校教育目標の実現と学校の危機管理体制の充実に向け、教職員相互が啓発・連携しあい、活気あふれる学校経営組織の確立と運営に努めます。
- ・ 子どもたちをかけがえのない存在、自ら成長していく存在、主体的に生きていく存在として認識し、「生きる力」を身につけるように特色ある教育課程の運営・改善に努めます。
- ・ 子どもたち、保護者、まちの人々の思いや願いを積極的に学校教育に活かしていくなど、教育に携わる者として社会の要請や信頼に応えるよう、研修の充実と資質・能力の向上に努めます。

改善の視点

1、学校教育目標である「自分のよさを発揮し他の人を認め合い子供が楽しく集う学校」へ向けて子ども・保護者・地域・教職員が協働態勢を密にして前進する必要があります。

2、基礎・基本の確実な定着を図るために、各教科等の学習指導の充実に努める必要があります。

取り組み目標

代表委員会を中心とした取り組みで、「オアシス」運動の継続化を図って生きます。あいさつ運動を全校展開します。家庭の協力を得て「早寝・早起き・朝ごはん」を強力に推進し子どもの健やかな成長を促していきます。心豊かな子どもの教育を推進するために授業参観に道德の授業を行うようにします。子どもの輝き場면을朝会時に紹介します。子ども一人一人を丁寧に見取り、不登校対策チェックリストを活用して不登校を未然に防止するように努めます。そして、「学校が楽しい」と思える学校を目指します。

学習状況調査全国一斉の学力検査の結果を検証し、横浜市の通過率平均と全国の平均を上回るようにします。そして、重点目標を明確化していきます。

算数における、少人数制指導・TTの継続を図りながら個別指導に対応できるように教育サポーターの拡充を図っていきます。

英語の導入にあわせ、18年度から英語導入検討委員会を設置し、資料の収集と教育課程づくりを行います。そして、19年度から英語教育準備校として導入に向けた準備をします。(19年度 5・6年生 20年度 3・4年生 21年度 1・2年生)

図書ボランティアの協力をいただき、読み聞かせを実施しています。来年度以降も朝読書や図書室の経営にも力を入れながら、本に親しむ子どもの育成に努めます。

校内授業研究を継続し、授業実践を通して授業力のアップを図っていきます。

3、学校を開き、地域参画型の学校運営を目指します。

学校・家庭・地域・福祉関係機関の協力を得て、ふれあいフェスティバルの拡大と充実に努力します。そして、コミュニケーションを図る機会とします。

特色ある教育活動の推進を図ります。「マーチングバンド・陸上競技部・タグラグビー・綱引き等」朝練習や放課後の練習を行い、それぞれの大会に参加するようにして学校の活性化を図っていきます。

地域とともに歩む学校づくりを推進していく上からも体育館のロビーを改装し、地域交流室としてふれあいの場を提供します。

「創ろうふる郷、ともに育もう本郷っ子！」を合い言葉に、学校や教職員の応援団として輝きづくり協議会を設置します。

オープンスクール・授業参観・懇談会・学校行事・学年行事等を通して学校を参観する機会を作ります。また、情報の発信に積極的に取り組み開かれた学校づくりに努めます。

4、安全・安心の学校づくりを進めるとともに、安全教育に充実に図ります。

18年度より「いたちっ子見守り隊を組織し、見守りを中心とした活動を展開しています。平成18年12月現在、64名の方が参加しています。今後は、毎年参加者を増やし19年度100名、21年度には250名前後の規模に、そして22年度には、全員登録をめざします。

P T Aの校外指導委員の協力を得て、安全マップに子ども110番の家を表示するとともに、積極的に活用して子どもの安全に寄与します。

危機回避の力を身につけさせていくために、防犯教室を毎年1・3・5年で実施するように計画します。また、不審者の侵入をふせぎ、子どもの安全・安心を作るために神奈川県くらし安全対策室の方を講師にお招きして、防犯訓練を実施して、いざというときに備えます。

携帯電話を使った、メール配信システムを開始していますが、緊急連絡網の併用で考えていきます。

平成18年7月より「地域見守りネットワーク」が立ち上がりました。それぞれの団体・グループ・個人が連携を図り、情報の共有化に取り組みながら支えあいの地域づくりを目指します。

<p>人材育成の考え方</p>	<p>どこの学校でも、この数年新採用者が2名程度配置されている。若手の教職員が占める割合が増えている。今後も増加が予想されます。教育委員会主催の研修だけでなく、校内においても初任者研修を積極的に行い、若手教職員の育成を図っていく必要があります。</p>
<p>平成 19 年年度の重点 取組項目</p>	<p>学援隊の保護者の方や地域の防犯関係者の方から、あいさつが帰ってこない子どもが2～3割に達しているという情報が入っている。そこで、「オアシス」運動の継続化をはかり、あいさつが全員できるようにしたい。</p> <p>子どもの活躍で表彰されたことや学級の取組で友だちの良いところを見つけ、紹介することを朝会時に行うようにしたい。</p> <p>英語導入検討委員会を設置し、資料の収集を行う。そのため、準備校に応募して教育課程づくりの用意を行っていく。(予定として、19年度 5、6年生 20年度 3、4年生 21年度 1、2年生)</p> <p>学校、家庭、地域、福祉関係機関の協力を得て、本郷ふれあいフェスティバルの継続と充実を図る。そして、コミュニケーション能力の育成に努める。</p> <p>地域とともに歩む学校づくりの推進をはかるために、地域交流室の設置を考えていきます。</p> <p>地域参画型の学校運営をめざし、パイオニア・スクール・よこはまの指定を受け3年目を迎える。そこで、今年度は、保護者や地域の方々々と学校が一体となった学校運営をすすめるために学校運営協議会を設置したい。</p> <p>安全・安心な学校づくりのために、「いたちっ子見守り隊」の登録者数を100人にしたい。</p> <p>学校防犯力を高めるために、1年、3年、5年生に対して防犯教室を実施する。そして、子どもに危機回避の力を身につけさせるようにしたい。</p>
<p>これまでの取組結果</p>	<p>防犯活動や見守り活動を行っている地域の方や保護者を朝会時にお招きし、お話をいただく機会をつくりました。その結果、顔みしりになり、あいさつする子どもが多くなりました。</p> <p>19年度英語教育準備校として、AETの先生とともに全学年で授業をおこなうことができました。</p> <p>本郷ふれあいフェスティバルの行事を立ち上げて3年目を迎えました。PDCAをもとに、諸機関の協力を得てみんなが楽しめて、しかも、達成感が味わえる行事にしたいと考えています。コミュニケーション能力の育成については、とても良い結果を出せました。</p> <p>平成19年6月から月2回の割合で、運営協議会設置に向けた話し合いを行ってきました。その結果、11月初旬に教育委員会に申請書を提出することができました。</p> <p>地域交流室の設置について、改造工事の許可があり、年内に工事できる見込みになりました。コーディネーターの活動の拠点として活用が期待されます。</p> <p>平成19年度、文部科学省委託「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」を受け、地域連携を基本とした学校防犯のあり方を模索しています。</p>

教育懇話会の意見

教育懇話会の意見として、本郷ふれあいフェスティバルについて、子どもの体験活動に積極的に協力をしたいと思います。

学校運営協議会設置については、学校を応援し教職員を支援する立場から地域と学校が一体となって、学校運営の改善や子どもの健全育成にあたるように19年度中に結論を出すようにします。

子どもの「安全」「安心」をつくっていくことは、何にも増して優先すべき内容です。そのためには、最大限協力をしていきます。

平成19年度 重点研究

1. 研究主題

豊かな言語活動を通して、自らの思いや考えを進んで表現できる子の育成
～ 確かな表現力の育成を目指して～

2. 研究内容

研究仮説

国画家の授業において、「話す・聞く・読む・書く」といった音声や文字に関する豊かな言語活動を意図的に取り入れていくことによって、言語に対する感覚を身につけるとともに、言語や文章を正確に理解したり、自分の思いや考えを言葉や文章ですすんで表現したりすることができる子が育つのではないか。

「豊かな言語活動を意図的に取り入れる」ことについて

言語活動とは言語による行動・活動のことをいう。一般に「聞く・話す・読む・書く」のことである。それぞれの学年に応じた言語活動を明らかにし、それらを意図的に取り入れていくことにより、自らの思いや考えを表現できる子の育成を図ることとする。

また、意図的に取り入れるためには、言語活動の生活化・日常化の実践に努めることも大切である。日記を書いたり、読書をしたり（朝の読書タイムの充実）、日直等のスピーチを取り入れるなどして、話すことの日常化を図り、良い聞き手を育てることなど、自分の思いが素直に表現できるクラスづくりをすることも大切である。